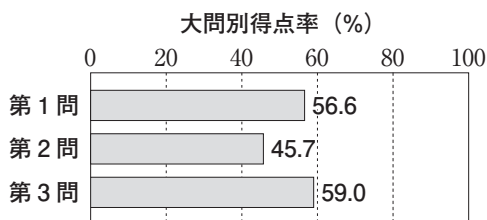
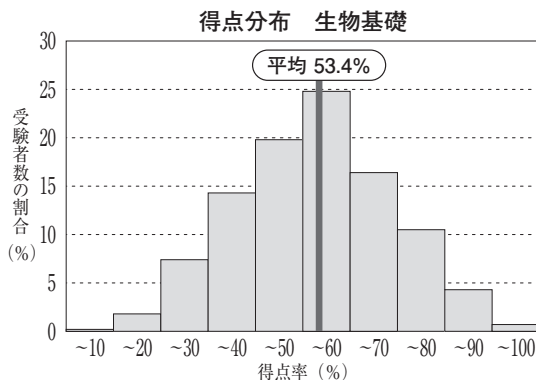


生物基礎

教科書の知識を適切に使って、問題を解けるようになろう。

I. 全体講評

今回の第1回2月センター試験本番レベル模試の平均点は26.7点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター本試験に準じた形をとり、第1問は生物と遺伝子、第2問は生物の体内環境の維持、第3問は生物の多様性と生態系とした。分野に偏りがなく、教科書全体からまんべんなく出題している。今回の模試で平均得点率に届かなかった大問、また他と比べて正答率の低い大問に重点をおいて、しっかりと復習をしておこう。



II. 大問別分析

第1問の得点率は56.6%、第2問の得点率は45.7%、第3問の得点率は59.0%であった。

第1問 生物と遺伝子

遺伝情報の発現と代謝に関する知識を整理しておこう。

AはRNAの構造、転写と翻訳に関する基本的な知識問題であった。問1～問3の正答率はそれぞれ32.1%、65.1%、57.4%であった。DNAとRNAの基本的な構造や転写・翻訳の過程についてももう一度確認しておこう。Bは代謝に関わる知識を広く問う出題であった。問4～問6の正答率はそれぞれ75.5%、17.7%、90.2%であった。細胞とエネルギーに関する知識にもれがないか、よく復習しておこう。

第2問 生物の体内環境の維持

ホルモンおよび生体防御に関する知識をまとめておこう。

Aは、ホルモンと内分泌系に関する基本知識を確認する問題および計算問題で、問1～問3の正答率はそれぞれ52.7%、45.7%、29.0%であった。基本的な用語の意味を確認するとともに、ホルモン分泌の調節のしくみについてまとめておこう。Bは体液性免疫を中心とした生体防御に関する基本知識を確認する問題で、問4～問6の正答率はそれぞれ65.5%、44.7%、36.6%であった。生体防御に関する知識、特に免疫を担当する各細胞の役割について整理しておこう。

第3問 生物の多様性と生態系

物質循環および環境問題に関する知識を整理しておこう。

Aは窒素の循環に関する知識問題で、問1～問3の正答率はそれぞれ18.4%、57.2%、78.2%であった。生態系における窒素の循環、炭素の循環、エネルギーの流れについては、自分で図を描いて正確な知識を身につけておこう。Bは生物濃縮に関わる計

算問題で、問4、問5の正答率はそれぞれ77.1%、62.7%であった。過去問等で類題に当たっておこう。他の環境問題についても、その原因としくみおよび対策に関して整理しておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書の知識をしっかりと身につけることを目指そう。

センター試験の生物基礎は、大問が3題の構成で出題された。センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。問題文を読みこなし、データを解析し、知識をもとに考察する力が必要となる。センター試験で高得点を取るためには、最後まで教科書をしっかり読み込み、どの分野にも苦手部分が残らないようにすることが大切である。ただ暗記するのではなく、納得するまで教科書を読みこみ、仕組みを理解しながら勉強しよう。これまで実施された模試やセンター過去問を使って、しっかり復習して高得点を狙おう。

◆模試を活用しよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくことは重要である。そのため、できるだけたくさん問題に取り組んでおくことが得点力のアップにつながる。ぜひ、模試や過去問を積極的に活用してほしい。